



平和な世界願いしめやかに 戦没者追悼式

町主催の戦没者追悼式が8月10日、平泉文化遺産センターでしめやかに営まれました。

式には遺族ら約120人が参列。菅原町長の式辞に続き、町遺族会会長の木村正さんが追悼の言葉を述べました。

また町内のコーラスグループ「ファンタジー」が追悼の歌を捧げ、最後に参列者が祭壇に花を手向けて静かに手を合わせ、戦争の犠牲となった肉親や先祖のめい福を祈っていました。



西目屋小学校の児童と交流

きらめきリーダー研修

町内の児童が町外児童と交流する宿泊研修「24年度きらめきリーダー研修」が8月2-3日にかけて、青森県中津軽郡西目屋村で行われました。この事業は世界遺産を有する地域に住む児童同士が、交流を通じて見聞を広めることなどを目的に開催。町内の小学5、6年生から児童12人が参加し、西目屋小学校の児童10人とレクリエーションや世界自然遺産白神山地の散策、弘前ねぶたまつりに参加して交流を深めました。



親子で木に親しむ

親子木工教室

親子木工教室が8月4日、西行桜の森木工芸館遊鵬で開催されました。

教室には小学生と保護者12組34人が参加。参加者らは木工芸館管理人から金づちやノコギリなどの説明を受け作業を開始。木のぬくもりを感じながら巣箱や貯金箱など思い思いの作品づくりに取り組んでいました。

作業終了後には、ひらいずみ里山クラブのお母さん方お手製のおにぎりや豚汁をいただき、楽しい1日を過ごしていました。



▲大泉が池に浮かぶ灯籠



▲幽玄な中尊寺新能（8月14日）



▲町内を優しくともした「夢灯り」
(写真は観自在王院跡)

行く夏を惜しむ 平泉の夜

8月16日恒例の大文字送り火が開催され、駒形峰に「大」の文字が赤々と浮かび上がりました。見物客らは送り火に向かって手を合わせ、先祖や東日本大震災の犠牲者らを供養していました。

また毛越寺大泉が池には、先祖供養や震災復興などの願いが込められた約1000個の灯籠が浮かべられ穏やかな水面を照らし、観自在王院跡や毛越寺パーク、中尊寺通りなどには、約3000個の夢灯りがともされ、町内は優しくも幻想的な雰囲気になりました。

百年の節目を祝う

八雲神社御遷座百年祭

八雲神社の御遷座百年祭の前夜祭が8月1日、本祭が2日同神社で行われました。

前夜祭では、かつて神社のあった若宮地区から長島小合奏団の演奏を先頭に神社神輿と水かけ神輿が巡行。その後境内では奉納演芸が行われ、6地区から24の多彩な演目が披露されました。詰め掛けた観客から大きな拍手や声援が送られて大いに盛り上がりました。

翌2日の本祭では、献膳行列や神事、記念式典が行われ、氏子や来賓ら約250人が出席。神事では巫女舞「豊栄の舞」が奉納されるなど遷座100年という節目の年を祝いました。

また遷座100年に当たり記念式典や記念碑の建立など4つの事業も展開。本殿に新調された28体の竜頭の除幕も行われ、迫力ある姿が披露されました。

